

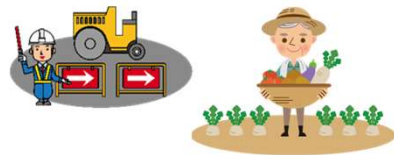
1. 日本村の様子

① 村の人口 (100人) について

- (性別) 村人100人のうち、男性49人、女性51人です。
- (年齢) 村人100人のうち、子どもは12人、お年寄り29人です。
村人のうち、小学生は5人、中学生は3人、高校生は3人、大学生は2人です。

(場所) 村人100人のうち、50人は人や会社の多い集落に住んでいます。

- (職業) 村人100人のうち、44人が仕事をしていて、
⇒2人は農家や漁師として働いています。
⇒11人は建物を建てたり、工場機械などを製造する仕事をしていて、
⇒31人は商店や飲食店、ITなどのサービス業として働いていて、
そのうち2人は公務員(警察、役場など)として働いています。



② 村の1年間の稼ぎ (500万円) について

- 村人と村の会社を合わせて、村全体で毎年500万円を稼いでいます。
- 村は、アメリカ村、中国村、ドイツ村に続いて、4番目にたくさんのお金を稼ぐことができる村です。
- 村は、昔から自動車を作ったりするのが盛んでしたが、最近は村人にインターネットサービスや配達サービスを提供するサービス業が盛んです。
- 村のお財布状況は厳しいですが、それを改善するためには、1年間の稼ぎをどうやって増やしていくのかも、とても重要な問題です。

【村の稼ぎを増やすための取組み】

- 村では、ロボットや人工知能、車の自動運転などの新しい技術開発を進めようとしています。
- 子育て・介護の環境を整えたり、若者への支援を拡充したり、村人の働き方を改革したりすることで、村人皆が活躍できる社会を目指しています。



③ 村の良い所 (治安、医療、教育等) について

- 村は他の村と比べても、とても安全な村です。
⇒1年間に事件に巻き込まれるのは、100人のうち、1人です。
- 村は、医療が発達していて、村人皆で助け合っているため、病気やケガをしても、安いお金で病院の先生に診てもらえます。
- 村では、人の数が少なく豊かではない集落に住んでいても、同じ公共サービスが、受けられるよう工夫を行っています。
(どの集落でも同じように警察官が守ってくれる。)
- 村では、年を取って働けなくなっても、村人みんなが助け合っているため、若いころからちゃんと村の会費を納めていた村人は、生活に必要なお金を年金として受け取ることが出来ます。
- 村が運営している小学校と中学校には、タダで通うことが出来ます。保育園や幼稚園、高校や大学も、村の子どもが安く通えるように、村が支援しています。



④ 村の課題 (少子高齢化、人口減少) について

- 村では、1年間に生まれる子どもが年々少なくなっています。そのため、今の人口が、2050年には84人に減ってしまいます。
子どもの人数は、12人 ⇒ 9人
大人(働き手)の人数は、59人 ⇒ 44人
お年寄りの人数は、29人 ⇒ 31人
- 人口が減って、大人も減ってしまった後に、村全体で毎年500万円も稼げるのか、これまで充実していた医療や教育などのサービスを受けられるのか、村人は心配しています。

2024年



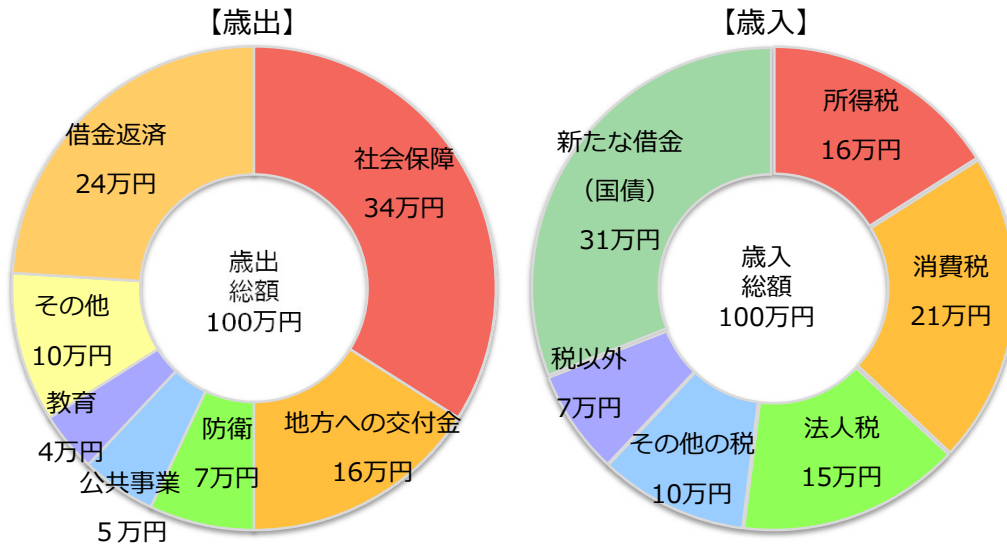
2050年



2. 日本村のお財布状況

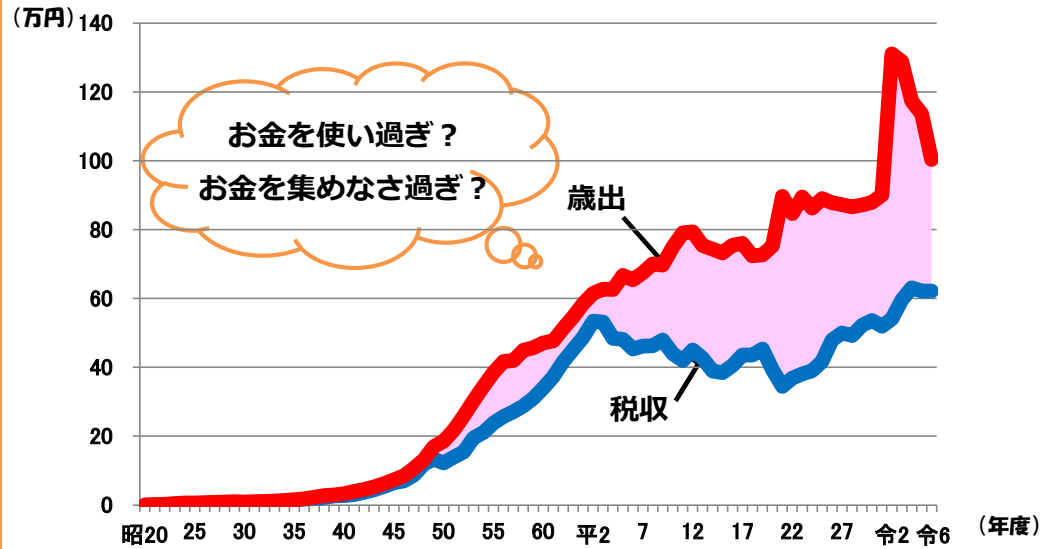
① 村の今年の予算 (100万円) について

村の1年間の支出を「歳出」、収入を「歳入」といい、この歳入と歳出の計画を「予算」といいます。村の今年の予算は、総額で100万円となっています。



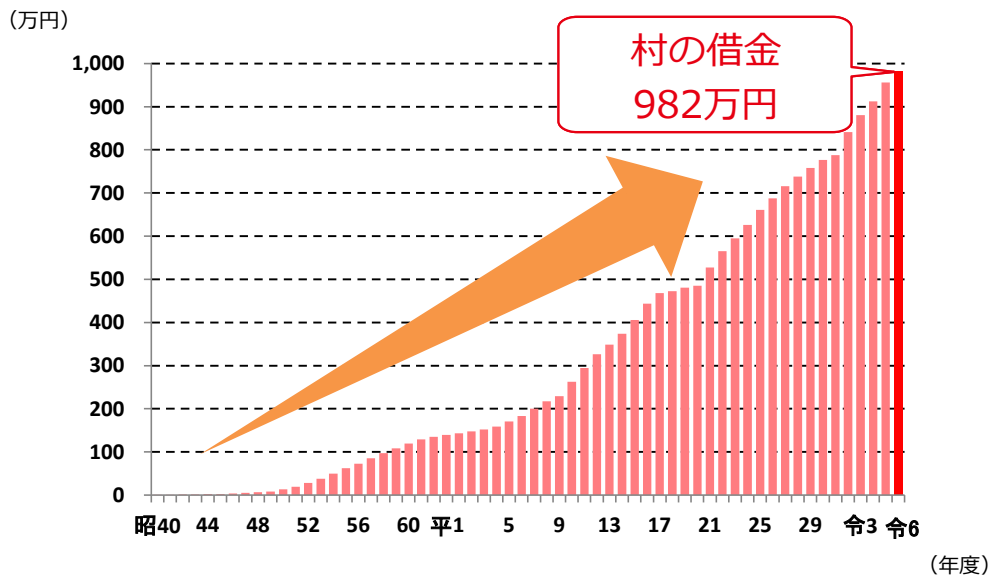
② 村の歳出と税収の推移

平成以降、歳出が増え続ける一方、税収は伸び悩み、その差は大きく開いてしまいました。そして、その差は村が借金をして穴埋めしています。



③ 村の借金総額の推移

毎年借金を続けた結果、村の借金は急速に積み上がっています。



④ 他の村と比べて見ると...

借金の水準 (村の借金総額 ÷ 経済規模) は、他の村と比べてもひどい状況に。

